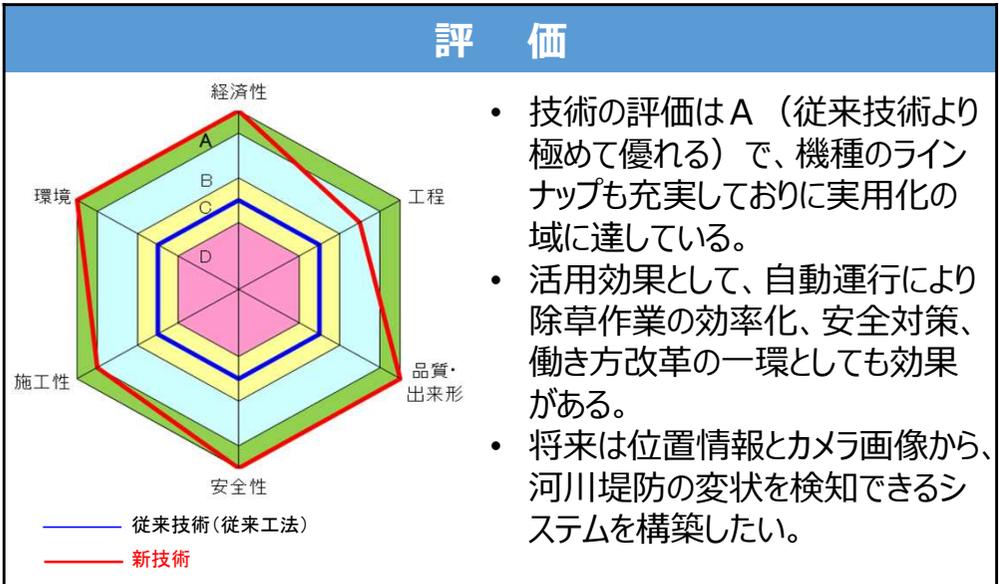


	従来技術（ハンドガイド式）	新技術（Automower）	評価	
経済性	・1,000m2当り単価（1回分） ハンドガイド式 9,200円、肩掛式 30,700円 このうえ集草・運搬・処分費がかかる	・更新期間を5年で設定し管理面積3,500m2 とした場合は、年間で約200,000円 →1,000m2当り ≒ 年間57,150円	A 〔従来技術より極めて優れる〕	無人完全自動化で除草し、管理することで人件費の削減につながる
工程	・芝刈り機により、年に2～4回程度、地域の要望により除草	・施工面積に対して草が伸びないように自動で管理するため、施工日数は年間を通して施工	B 〔従来技術より優れる〕	年間を通して施工しており、工程としては特でない
品質・出来形	・新芽まで刈ってしまうのでムラができる ・施工管理要領に定められた草丈に刈る ・年間2～4回なので、その間、草丈が伸びる	・芝地・草地においてほぼ均一に刈り揃える ・水平円盤によるカッティングであるため、芝にムラができない	A 〔従来技術より極めて優れる〕	常に刈り揃えることで良好な景観を維持し、また不法投棄の抑止する効果も期待できる
安全性	・飛び石があるため、飛散防止装置が必要である ・刈刃の接触等による作業員及び周辺人員への危険性がある	・飛び石は構造上危険性はない ・刈刃の接触等による危険性はない	A 〔従来技術より極めて優れる〕	作業員及び周辺人員への危険性はなく、防犯上も含め安全に関するプログラムが多数組み込まれている
施工性	・人力により、施工するため人の技術と経験が必要である	・全自動であり、芝刈りについて特に経験は必要ない	A 〔従来技術より極めて優れる〕	施工前に除草が必要であるが、それ以降は草丈設定範囲内で維持管理
環境	・ガソリン等により、CO2の排出がある ・エンジンにより、騒音・振動はある	・バッテリーにより、CO2の排出はない ・同様に、騒音・振動はほとんど無い	A 〔従来技術より極めて優れる〕	騒音、CO2排出等が無く環境面で優れている
合計			平均点：A（従来技術より極めて優れる）	

技術の成立性	・技術は成立しており、機種ラインナップも充実している
実用化	・ビジネス段階とはなっているが、河川堤防除草へのアプローチが無く、今後、緩傾斜堤防における芝生管理等への実用化が可能
活用効果	・常時、草丈が同じであるため、ごみ捨ての抑止、火災延焼の防止、法面変状の確認が容易にできる
将来性	・将来は位置情報とカメラ画像から、河川堤防の変状を検知できるシステムを構築したい
生産性	・自動運転であることから、省力化、効率化に優れていることから、生産性の向上に規する



試行状況



試行状況
(ロボット芝刈機 AUTOMOWER™ 435X AWD)



福井市船橋新町地先（馬渡川樋門付近）
試行状況



汐見公園でのイベント試行状況

アンケート 意見

○見学者からの意見

- ・あらゆる面で高性能かつ高コスパであることに驚いた。
- ・うまく使えばコスト縮減かつ良好な堤防植生の維持につながる事間違いなし。取り組まない事務所との差が生じる。
- ・今後の可能性として、堤防表面の凹凸を計測できることから、堤防の変状を把握することもできるし、カメラを装備することで周辺状況の把握がリアルタイムで可能となる。
- ・副次的効果として、堤防の天敵モグラを撃退する効果がありそうである。
- ・電源が確保出来ない場所に、ソーラパネル＋バッテリーによる電源スタンドを検討することで電源が確保出来ない堤防法面にも適用可能となる。
- ・新堤など、一部のノーマルな箇所・範囲に限って使用するには最適だと思います。事務所の色々な取り組みがあるなか、コスト的に安価となれば、試験的に活用してみる価値はあると思いました。